



取締役 サーボシステムビジネス担当
サーボシステム事業部副事業部長
仲田 克之
Katsuyuki Nakata

SERCOS Japan設立とオープン化

“Think Global, Act Local”「理念は大きく広く、行動は地道に」という意味です。当社の企業理念「私たち山洋電気は、全ての人々の幸せをめざし、人々とともに夢を実現します。」は、真にThink Globalであり、SERCOS Japanの設立はオープン化へのAct Localのひとつでした。準備から設立まで山洋電気が無事やりおせたことをご報告いたします。

昨年8月にIGS(ドイツ/SERCOSの中心団体)ヤーコブ理事より「SERCOSを日本で普及させるために、SERCOS Japan設立のコーディネートを引き受けてくれないか。」という要請があり、当社の山本社長が快諾され、私が担当に任命されました。

ご存知のようにSERCOSとは、各種のアクチュエータ(サーボモータ、リニア同期モータ、油圧サーボ…)とコントローラを接続する唯一国際的に認証されているネットワークです。当社の製品では、「S-MAC」、「PZ」、「PQ」などがこのインタフェースを有しています。このネットワークは、光ファイバー(プラスチック)によってサイクリックデータを2MHz、4MHzおよび16MHz(開発中)で高速通信することと、サーボアンプの制御機能のID化を図ることに特徴があります。

さて、SERCOS Japan設立に戻ります。最初に初代の会長にどなたになっていたかどうかと悩みました。FAネットワークMAP推進役であり、FAオープン化の日本での推進団体OSEC(Open System Environment for Controllers)の代表をされた、摂南大学の和田龍児教授(工学博士、元豊田工機専務)が、「中国の古い諺に『隗より始めよ』という言葉があります。不毛な百の議論よりも産業界に具体的なオープン化の里程標を築くための実行・実践の永続的な努力が建設的であることは言うまでもありません。我々は一致協力してまず隗より始めようではありませんか。」とお引き受けいただき、心より感謝いたしました。

また、豊田工機(株)殿、レックスロスオートメーション(株)殿、富士機械製造(株)殿、モーション・エンジニアリングInc. 殿、(株)日経BP社殿の5社と当社の計6社が発起人となりハノーバーメッセ'98の会期中にIGSの承認を経て、今年の6月17日に39社の会員が池袋ホテルメトロポリタン会議室に集まり、正式にSERCOS Japanが設立されました。ヨーロッパのIGS、北米のSERCOS N.A.と日本のSERCOS Japanの3つの団体により、モーションコントロール分野のデジタルネットワークのオープン化が確実に進むと思えます。

「オープン化」は当たり前、「オープン化」はお客様の言葉…と、「オープン化」は言うは易く、行なうことが難しい言葉です。1台のロボット、1つの機械にいろいろなメーカーのモータが混載されていることが当たり前になる時代、考えると素晴らしい反面、メーカーにとっては恐いことです。

当社にとって、オープン化を実現する方法は、もちろんSERCOSだけではありません。DeviceNetなどの他のオープンネットワーク、Windows 95、98で実行できるソフトウェアなどが考えられます。また当社のオブジェクト指向の制御言語AMLを

客先にオープンすることなどを考えています。このうちソフトウェアによるオープン化が将来の主流になることは疑う余地がありません。

山洋電気は、SERCOS Japanの一員としてSERCOSの普及を通してFAのオープン化を推進し、企業理念を実現するという大きな使命を果たします。

* 文中の会社名と商標名はそれぞれ各社の登録商標または商標。
